

令和２年度決算に係る事務事業に対する提言

番号	事務事業名	所管常任 委 員 会	今後の方向性	事務事業に対する提言
1	歴史的財産保存・活用事業（恋しき・郡役所）	総務文教	一部見直しのうえ 継続すべき	「恋しき」の取得事業は多額の費用を要した事業である。 今後、この「恋しき」、「郡役所」の事業を進めるに当たっては、まず、将来像の明確化をされたい。 「恋しき」の保存・活用においては、庭園も含めて、検討されたい。
2	新たな「関係人口」の創出・拡大による移住定住促進事業	総務文教	抜本的な見直しの うえ継続すべき	総務文教委員会としては、この事業に反対するものではない。 移住相談員の配置、お試し移住体験住宅など具体的に事業が進みつつあるが、実際には府中市への移住者は簡単にはふえないことから、費用対効果があまりにも低いと言える。よって、抜本的な見直しが必要と判断する。加えて、家を建てやすくする環境、市民への魅力発信など、定住につながる取り組みも行うべきであり、再検討をされたい。
3	スポーツによる魅力あるまちづくり～まちづくりの視点から捉えたスポーツ施策の展開～	総務文教	一部見直しのうえ 継続すべき	新たな市民プールは、２０年後の人口・年齢層等を十分に考慮し、過大な投資を控えて多世代型複合プールを目指されたい。 グラウンド整備については、速やかに実行されたい。 （仮称）府中市まちなかマラソン大会、ＥＶゼロハンカーレースについては、さらに工夫を加えて関係人口の創出につなげてもらいたい。
4	地域防災力強化事業	総務文教	一部見直しのうえ 継続すべき	コロナ禍にあって「自主防災組織の活動支援」及び「防災リーダー等のスキルアップ」の事業は計画どおり、実施できていないが、引き続き取り組まれない。 防災士の育成については、自主防災組織において人数にばらつきがあるので、地域格差は考慮されたい。 また、マイ・タイムラインの普及促進のため、自主防災組織への呼びかけを行われたい。

5	I C Tを活用したまちづくり	総務文教	現状のまま継続すべき	I C Tを迅速に取り入れ、環境整備を進めることで、今後、公共サービスの向上と地域課題の解決にどのようにつなげるかが課題である。デジタル庁の動向を注視し、利用できる制度は活用され、I C T都市ふちゅうの実現に向けて取り組まれない。
6	府中版ネウボラ（子育て総合相談拠点）事業	厚生	現状のまま継続すべき	天満屋の2階に移転したことにより、相談に行きやすい環境が整い、にぎわいづくりにも貢献している。1階入口にネウボラ案内板の設置等市民へのP Rを積極的に行い、利用者のニーズに応えられるようサービスの充実を図り、事業を継続していただきたい。
7	三玉プロジェクト（上下地域包括ケア拠点施設整備事業）	厚生	一部見直しのうえ継続すべき	地域で十分活用できるよう年度内に住民説明会を行い、地域住民と合意形成をした上で、駐車場についても継続して検討を行い、令和4年度のオープンに向けて事業を継続していただきたい。
8	地域福祉計画実施に向けた取組	厚生	一部見直しのうえ継続すべき	実績が目標と乖離しているのはコロナ禍によるものだけではないと感じる。事業としては必要なものであり、社会福祉協議会と連携し、新規事業については、十分な予算を確保し、人材育成に力を入れる等、効果的な方法を検討し、事業を継続していただきたい。
9	市民病院の将来のあり方検討業務	厚生	一部見直しのうえ継続すべき	継続中の事業であるが、現状の問題点を洗い出し、市民の声にも耳を傾け、病院機構とともに課題を明確にし、具体的な目標を立て、その成果が十二分に発揮できる環境を整えられたい。また、その目標や成果について市民への広報・説明を強化されたい。
10	I C Tを活用したまちづくり	厚生	一部見直しのうえ継続すべき	オンライン診療は、今後必要とされる分野であり、I C T環境の整備も含め、市の主導で推進協議会を立ち上げ、関係機関を巻き込んだ具体的な検討を開始し、拡充に向け継続して取り組まれない。

11	まちなか再生（グラ ンドデザイン）の実 行に向けて	建設	一部見直しのうえ 継続すべき	人口減少の中、計画どおりに実施可能か不明確であるが、第3期都市再生整備計画について、国の承認を得られたことは評価できる。 府中駅南側について、イベントの開催等の社会実験を行いながら、効果を適正に分析しながら進め、併せてウオーカブルエリアの選定は、慎重にされたい。また、かわまちづくりについては、駐車場の確保を取り組み項目に追加されたい。府中駅整備基本構想については、現実性のある構想とするため、J Rとの合意形成ができた内容を構想に反映されたい。
12	駅周辺の賑わいづく り事業	建設	現状のまま継続す べき	i - c o r e F U C H U（いこーれふちゅう）について、ネウボラ機能を備えた第1期整備は、府中駅南側の核となる施設として予定どおりオープンされた。今後は、施設の利用促進を図られたい。 第2期整備に期待する声も多く、状況を分析しながら第2期整備へ反映させ、また、時代を先取した発想により、継続した賑わい創出を図られたい。また、府中駅から国道まで抜ける道路を整備されたい。
13	観光振興ビジョンの 実行	建設	一部見直しのうえ 継続すべき	「府中市観光の体制づくり」、「地域資源の観光商品化」、「観光客受入の環境整備」は概ね良好である。観光事業者等が自立した活動ができる支援やコロナ禍における観光のあり方を検討されたい。 また、「地域で稼ぐ観光の実現」を掲げていることから、経済効果を設定目標に追加するべきである。 観光客数、経済効果の目標達成のため、市内観光地やイベント情報など、あらゆる手段により積極的にP Rされたい。

14	上下地域の観光振興事業	建設	抜本的な見直しの うえ継続	翁座耐震・大規模修繕改修、計画が不明確な分散型ホテルなど、ハード事業については、費用対効果が極めて低いため休止・廃止すべきである。その上で翁座については、費用対効果が比較的高い活用法について検討されたい。また、分散型ホテルについては、計画を明確にされたい。当面はハード事業を見合わせ、プロモーション活動、宿泊・飲食割引、リピーター割引などソフト事業を重点的に取り組まれない。 インバウンドは必要であるが、まずは、国内、県内の観光客を最優先した取り組みを図られたい。
15	中小企業振興に向けた産業連係室の創設	建設	現状のまま継続すべき	目標に対する実績は低調であるが、コロナ禍による影響によるものとする。産業連係室は、市内中小事業所に対するプラスの影響は大きく、また、事業所の多岐にわたる課題解決支援、事業所訪問の充実のため産業連携室の体制強化を図られたい。 近畿大学との包括連携協定の効果を最大限発揮させるため、積極的にPRされたい。
16	企業流出防止に向けた産業用地確保の推進	建設	現状のまま継続すべき	企業流出防止及び企業誘致については、インフラ整備及び産業用地の確保が必要である。 産業団地について、ニーズの把握と変化を的確に捉えるため、詳細なニーズ調査を継続的に実施されたい。 候補地の選定については、交通インフラが重要であることから、交通インフラを検討項目に含めて検討されたい。